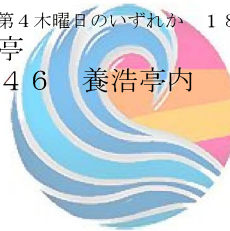


皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
- ◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
- ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
- Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
- e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
- ◇点 鐘 小林 一夫会長
- ◇ソング 奉仕の理想



BE THE INSPIRATION

第1451回例会 平成30年10月14日(日)

龍勢祭り例会

延喜式内 棕神社由緒

日本武尊統治赤柴にて道に迷われた折、お持ちになった銚の先から一条の光が走り、その方向に大きな棕の木が立ち、根方の泉近くに猿田彦大神が立たれ、赤井坂に導かれる。これにより大勝を得られたので、尊は喜ばれて井泉の辺に銚を神体として猿田彦大神を祀り給うた。これを当社の創めとする。銚より光の出た所を光明場（あさば）という。

和銅3年 芦田宿禰守社殿を造営したのが始まりという。

貞観13年 従五位を賜る。

延喜年間 延喜式神名帳に秩父郡二座、秩父神社・棕神社（国幣小社）と誌される。

天正3年 戦国時代の兵火を受けて焼失した社殿を鉢形城主北条氏邦によって再建。祭具、木魚二本と共に氏邦着用の筋兜を奉納される。

慶長9年 江戸城築城の用材として境内の櫨の大木36本を送る。棕神社神主、神田明神の鍵番を徳川家康に仰せつかる。

明治6年 棕神社、村社に列せられる。

明治9年 吉田東、西、阿熊学校を統合し境内に校舎建設、棕宮学校とする。

明治15年 棕神社、県社に昇格する。

明治17年 秩父事件勃発、棕神社に困民党終結す。

吉田龍勢の起源と由来

棕神社縁起〔棕五所大明神由来〕(1725)によると、「日本武尊」が奉持した銚より発した光のさまを尊び、後生氏子民が光を飛ばす行事として、往古より神社前方の吉田川原で大火を焚き、その燃えさしを力の限り投げて、その光でご神意をなぐさめ奉った。火薬が発明されるや、これを用いて火花を飛ばし、現在の龍勢のもととなった。夜間見る時は、星のごとく、よって流星と書き、昼間見る時には、雲中に龍の翔るがごとく、よって龍勢とも書く。

現在の龍勢は、松材を真二つに割って、中をくり抜き、これに竹の籬（たが）をかけて火薬筒とする。この筒に硝石、炭、硫黄を原料にして黒色火薬を作り、きめ棒をかけやで打って詰め、最後に筒の底に錐で穴をもみ噴射口を開け、背負い物（しよいもの）と共に矢柄（長い竹竿）に組み付けて完成する。背負い物には、唐傘、のろせ、煙火、吊るし傘などがあり、上りつめた龍勢から放たれて、ひらひらと落ちながら秋空をいろどる。これらの製法は各集落に近年まで伝わり、現在では、火薬製造の資格を得た27の流派がこれを受け継いでいる。

昭和39年 吉田町民俗資料指定

昭和62年 全国町村日本一辞典選定

平成5年 サントリー地域文化賞受賞

平成9年 埼玉県無形民俗文化財指定

平成12年 埼玉100選選定

平成30年 重要無形民俗文化財指定

出席率 100%

